

【山形県長井市】
校務DX計画

令和5年11月および令和6年9月に実施した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」の調査結果では、統合型校務支援システムの活用や教育委員会と学校間の各種事務手続き等のペーパーレス化など、一定の成果が見られたものの、学校から家庭への連絡手段のデジタル化やクラウドサービスを活用した保護者との連絡体制の充実等が課題となった。

また、教育委員会主催の研修方法も対面だけでなくオンラインを併用したハイブリッド方式での実施や資料のペーパーレス化など検討が必要である。これらを踏まえ、当市では、以下の取り組みや検討を行い、校務DXを進めていく。

1. 保護者連絡アプリの導入

家庭環境が多様化している児童生徒の状況に応じた個別サポートを学校で円滑に行えるようにするため、保護者連絡アプリの導入（日本語を含む7言語に対応）を令和7年度に導入する。

児童生徒の欠席、健康状態の連絡について、保護者からはPC、スマートフォン等のアプリ上で簡易に可能とし、学校においてはそれらの最新状況が校務PC画面上で確認ができるものとする。

また、学校及び教育委員会からは、連絡文書の電子データでの送付や緊急時連絡、およびそれらについての保護者の既読状況を確認できるようにする。

2. 校務支援システムのクラウド化とアプリ連携

現行の校務支援システムはオンプレミス型で運用をしているが、次期校務支援システムは令和7年度の更新においてクラウド型にリプレースする。

クラウド型では校務システムと上記の保護者連絡アプリが連携し、児童生徒名簿と欠席連絡情報の取り込みを可能にすることで教職員の業務省力化を図る。

3. 教育委員会が実施する研修方法の検討

これまで教育委員会主催の研修はすべて対面による実施であった。令和7年度からは対面だけでなくオンライン参加も可能なハイブリッド方式を検討、実施していく。

また研修資料を紙媒体だけでなく、クラウド上に保管、閲覧できるようにし、ペーパーレス化を図っていく。

4. 計画期間

上記取り組みは、令和7～11年度に行うこととする。